

まるカン2023

ひっかけ
問題

成人看護学

1 異常な呼吸音のうち高調性連続性副雑音はどれか。

[第 107 回 午前 19 問]

1. 笛のような音〈笛音〉
2. いびきのような音〈るいかんおん類鼾音〉
3. 耳元で髪をねじるような音〈捻髪音〉
4. ストローで水に空気を吹き込むような音〈水泡音〉

高調性連続性副雑音とは、狭窄した気道を空気が通るときに発生する笛のような高い音のことをいう。【答え 1】

2 肺気腫の患者が、歩行時の息切れが強くなってきたため受診した。呼吸数は 34/分、口唇のチアノーゼがみられた。この患者について正しいのはどれか。

[第 101 回 午前 52 問]

1. 1 回換気量が増加している。
2. 病状が進行すると PaCO₂ が上昇する。
3. 呼気よりも吸気を促すと効果的である。
4. 経皮的動脈血酸素飽和度〈SpO₂〉は上昇している。

肺気腫とは、肺胞壁が破壊され、肺が収縮する力である弾性収縮力が低下して呼気が減少するため、PaCO₂ が上昇する。【答え 2】

3 気胸について正しいのはどれか。

[第 104 回 午後 32 問]

1. 外傷は原因の 1 つである。
2. 自然気胸は若い女性に多い。
3. 原因となるブラは肺底部に多い。
4. 治療として人工呼吸器による陽圧換気が行われる。

気胸は外傷性気胸と自然気胸があり、自然気胸は10代から20代のやせ型の男性に多い。ブラは肺尖部に多く、治療は胸腔ドレーンを挿入し脱気する。または外科的手術となる。【答え 1】

4 Aさん(56歳、男性)は、コンビニエンスストアの店長で自動車を運転して通勤している。不規則な生活が続き、ストレスが溜まることも多く、十分な睡眠がとれないこともあった。荷物を運ぶときに胸部の圧迫感が繰り返し出現し受診したところ、狭心症が疑われたため検査することになった。脂質異常症の既往がある。

検査の結果、Aさんは労作性狭心症と診断され、硝酸薬、カルシウム拮抗薬および抗血小板薬を内服することになった。その後、外来通院を続け、以前と同様に負荷のかかる作業もできるようになった。内服治療から1か月後、胸部の圧迫感が強くなり、時々左上腕から前腕にかけての放散痛も出現するようになったため、経皮的冠動脈形成術(PCI)を受けた。カテーテルは右大腿動脈から挿入されていた。手術中から抗凝固療法を実施している。手術直後の観察項目として適切なのはどれか。2つ選べ。

[第107回 午前92問]

1. 乏尿の有無
2. 皮膚の黄染
3. 出血の有無
4. 両足背動脈の触知
5. 穿刺部位の感染徴候

手術中から抗凝固療法を実施しているため、出血傾向になる。手術直後は穿刺部位が出血傾向にあるため圧迫止血されているので、大腿動脈より末梢の足背動脈の触知を確認し、強度の圧迫によって循環不全を起こしていないか観察する必要がある。両足背動脈を観察し、脈拍が微弱になっていないか、左右差はないか観察する。穿刺直後には感染症は発症しない。【答え 3・4】

5 Aさん(54歳、男性)は、10年前に心筋梗塞を発症し、2年前に慢性心不全と診断され外来受診を続けてきた。1週間前からトイレ歩行時に息苦しさがあり、4日前から夜に咳と痰とがみられ眠れなくなっていた。本日、Aさんは定期受診のため来院し、心不全の増悪と診断され入院した。入院時、体温36.3℃、呼吸数24/分、脈拍96/分、整で、血圧124/72mmHgであった。心エコー検査で左室の駆出率28%であった。体重は1週間で4kg増加し下肢の浮腫がみられる。

このときのAさんのアセスメントで適切なのはどれか。

[第104回 午前91問]

1. ショック状態の可能性が高い。
2. 左心不全の症状はみられない。
3. NYHA心機能分類のI度に該当する。
4. 浮腫は右心不全の症状によると考えられる。

慢性心不全は左心不全の呼吸症状、左の駆出率の低下から始まり、右心不全の全身症状(浮腫)となり両心不全になる。【答え 4】

6 Aさん(55歳、男性)。胃癌のため胃全摘出術を受けた。術中の出血量は300mLで、輸血は行われなかった。既往歴に特記すべきことはない。入院時身長166cm、体重78kg。手術後1日、硬膜外持続鎮痛法が行われているが、Aさんは創部痛が強いため呼吸が浅く、離床はできていない。このときのバイタルサインは、体温37.1℃、呼吸数22/分、脈拍120/分、血圧162/90mmHg、経皮的動脈血酸素飽和度〈SpO₂〉93% (鼻カニューラ2L/分酸素投与下)。Hb 13.8g/dL。尿量60mL/時。意識清明、心音および呼吸音に異常なし。頸静脈怒張なし。下肢に浮腫なし。創部に熱感や発赤を認めない。腹腔ドレーンからは少量の淡血性排液があるが、膿性ではなく、異臭もない。手術後14日、Aさんは食後に出現していた症状が落ち着き、退院が決まった。

Aさんへの退院指導の内容で適切なものはどれか。

[第107回 午前96問]

1. 1回の食事量を増やす。
2. 海草を積極的に摂取する。
3. 食後の冷汗が出現した際には身体を温める。
4. 空腹時はコーヒーなどの刺激物の摂取を避ける。

食後の冷汗は、早期ダンピング症状が出現しているということである。胃を切除しているため、刺激物は控える。【答え 4】

7 慢性膵炎の患者の食事療法で制限が必要なのはどれか。

[第104回 午前41問]

1. 糖質
2. 脂質
3. 蛋白質
4. 脂溶性ビタミン

膵液は胆汁とともに脂肪を分解する消化液である。【答え 2】

8 肝障害の指標となる血液生化学検査の項目はどれか。

[第107回 午前15問]

1. CRP
2. 尿素窒素
3. アミラーゼ
4. ALT〈GPT〉

CRPは炎症反応、尿素窒素は腎機能、アミラーゼは膵機能である。【答え 4】

9 貧血で正しいのはどれか。

[第 99 回 午前 31 問]

1. 再生不良性貧血では易感染性がみられる。
2. 溶血性貧血では直接ビリルビンが増加する。
3. 鉄欠乏性貧血では血清フェリチンが増加する。
4. 悪性貧血では通常赤血球以外の血球系は保たれる。

再生不良性貧血では、血液の造血機能が低下するため、白血球の減少が起りやすく易感染状態となる。

【答え 1】

10 出血傾向を把握するために重要なのはどれか。2つ選べ。

[第 106 回 午後 78 問]

1. 血糖値
2. 血清鉄
3. 血小板数
4. アルカリフォスファターゼ値
5. 活性化部分トロンボプラスチン時間 (APTT)

血小板が少ないと血栓が凝固しにくく、出血しやすくなる。また、活性化部分トロンボプラスチン時間 (APTT) が長いと、血液を凝固するのに時間がかかる。よって、この二つが出血傾向を把握するためには重要である。

【答え 3・5】

11 アナフィラキシーショックで正しいのはどれか。2つ選べ。

[第 108 回 午後 84 問]

1. 徐脈になる。
2. 重症例では死に至る。
3. 気道粘膜の浮腫を生じる。
4. III型アレルギー反応である。
5. 副腎皮質ステロイドは禁忌である。

アナフィラキシーショックの前駆症状には痒痒感、蕁麻疹、発汗、呼吸困難、動悸などがある。蕁麻疹は粘膜や弱い皮膚から発症し、気道粘膜も浮腫・皮膚の膨張が発症し、気道が狭窄して呼吸困難を生じる。

【答え 2・3】

12 全身性エリテマトーデス〈SLE〉で生命予後を悪くするのはどれか。 [第101回 午前 77問]

1. 筋 痛
2. 関節炎
3. 蝶形紅斑
4. ループス腎炎
5. Raynaud〈レイノー〉現象

ループス腎炎は、全身性エリテマトーデス〈SLE〉の合併症としてみられる腎障害である。生命に関わるものは、腎炎から腎不全へと移行していく内臓器疾患である。【答え 4】

13 ヒト免疫不全ウイルス〈HIV〉の感染経路で正しいのはどれか。2つ選べ。

[105回 午前 82]

1. 感染者の嘔吐物との接触
2. 感染者の咳による曝露
3. 感染者の糞便との接触
4. 感染者からの輸血
5. 感染者との性行為

ヒト免疫不全ウイルス〈HIV〉の感染経路は、輸血や注射器具の共有などの血液を介する感染、性交渉などの体液による感染、妊娠中の胎盤感染や出産時の産道感染、授乳などの母子感染である。【答え 4・5】

14 慢性副鼻腔炎の手術を受けた患者に対する説明で適切なのはどれか。 [第108回 午後 46問]

1. 咽頭にたまった分泌物は飲んでも良い。
2. 臥床時は頭部を低く保つ。
3. 手術当日から入浴が可能である。
4. 物が二重に見えるときは看護師に伝える。

副鼻腔は目に隣接しているため、視神経を損傷する恐れがある。【答え 4】

15 Aさん(59歳、男性)は、経尿道的前立腺切除術後1日で、強い尿意を訴えているが腹部超音波検査で膀胱に尿は貯留していない。Aさんは、体温36.9℃、脈拍88/分、血圧128/86mmHgであった。尿は淡血性で混濁はなく蓄尿バッグ内に3時間で350mL貯留している。

この状態で考えられるのはどれか。

[第104回 午後56問]

1. 尿道狭窄
2. 尿路感染症
3. 膀胱刺激症状
4. 膀胱タンポナーデ

膀胱タンポナーデとは、下部尿路の閉塞により膀胱が尿で充満した状態を指す。この問題の場合は、尿は流れているので、カテーテル挿入による膀胱刺激症状である。【答え 3】

16 糖尿病外来の看護師が通院中の糖尿病の患者を対象にフットケア教室を行うことになった。対象者の選定基準で、最も優先されるのはどれか。

[第101回 午前80問]

1. 外出頻度が高い人
2. 感覚神経障害がある人
3. インスリン療法中の人
4. HbA1c値が7%以上の人
5. 運動靴を履く頻度が高い人

糖尿病では、神経障害、感染リスク、末梢循環障害によって、足病変が生じやすい。感覚障害があることで、傷や病変の発見が遅れて重症化しやすい。【答え 2】

17 低値によって脂質異常症と診断される検査項目はどれか。

[第102回 午後28問]

1. トリグリセリド
2. 総コレステロール
3. 低比重リポ蛋白コレステロール (LDL-C)
4. 高比重リポ蛋白コレステロール (HDL-C)

HDL-Cは余分なコレステロールを肝臓に戻すはたらきがあるため、低値では脂質異常となる。【答え 4】

18 Aさん（52歳、女性）は、子宮頸癌で広汎子宮全摘術後に排尿障害を発症した。退院に向けて自己導尿の練習を開始したが、39.0℃の発熱と右背部の叩打痛が出現した。

Aさんの症状の原因として考えられるのはどれか。

[第104回 午前53問]

1. 膀胱炎
2. 虫垂炎
3. 腎盂腎炎
4. 骨盤内膿瘍

導尿による尿路感染のため膀胱炎も起こしているが、右背部の叩打痛があるため、腎臓まで感染が及んでいる腎盂腎炎の発症が原因と考えられる。【答え 3】